

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471503130		
法人名	(株)アサヒライフコーポレーション		
事業所名	グループホーム憩		
所在地	福山市山手町1385-1		
自己評価作成日	平成22年11月16日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺には田畑があり懐かしい農村風景と豊かな自然に恵まれた環境の中に「憩」があります。近くには保育所や中学校や公民館もあり子供たちや地域の人々との交流、町内行事への参加など地域と暖かい結びつきを築いています。一人ひとりの入居者様に合わせたレクリエーションやリハビリ体操、その方の生活歴を活かした手作業などを通し、生きがいの持てる暮らし、明るく楽しく暮らし、穏やかで安心できる暮らしを送って頂けるよう職員が思いを一つにして取り組んでいます。地域の方々の協力を頂きながら皆様の「憩い」の場所であり続けたいと願っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html">http://www.hiroshima-fukushi.net/kohyo/index.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	福山市三吉町南1丁目11-31-201		
訪問調査日	平成22年12月7日		

当該事業所は長閑な田園地帯の中に位置し、気候の良い季節には、毎日散歩を楽しむことができる。また、職員や利用者は地域の行事に参加したり、散歩時に声掛けをして結びつきを築いている。職員同士の連携が築かれ、互いの意見を尊重し、仕事に誇りを持って従事している。管理者や職員の熱意が感じられ、利用者の生活暦を理解することで、笑顔で楽しみのある生活ができるよう、取り組みを行っている。個々の利用者の似顔絵や誕生から百寿までの人生すごろくなどで利用者は楽しい時間を過ごし、家族にも喜ばれている。職員はそれぞれ、具体的な目標を掲げ、更なる発展のために、努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をサービスの基本として考え、また理念を目標として、実践につなげることを大切にしている。そのためにミーティングや申し送りなど、折にふれ話し再確認するようにしている。	職員間で話し合っ地域や職員、利用者との「心のつながり」を大切にしたい理念を作成し、取り組んでいる。問題を抱えた時は理念に立ち返り、全職員で共有し、業務に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として地域の活動行事には積極的に参加している。職員と近所の方々と顔なじみになっており、良いお付き合いが出来ている。	町内会に加入し、中学生のチャレンジウォークや養成講座を開催するなど地域に協力したり、中学生の吹奏楽部の訪問やボランティアの受け入れ、秋祭りに地域の方々が事業所の厄を払い、繁栄を祈ってくれる等、日常的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを利用して勉強会、講習会、相談会を実施している。10月には認知症サポーター養成講座を開催し職員、家族、地域の方々と共に学ぶ機会を持つことができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度からは、入居者様の重度化に伴うリスクや危機管理、防災面でのリスクや危機管理に重点を置いている。消防署長を招き情報交換、話し合いを実施しサービス向上に活かしている。	運営推進会議は定期的実施され、テーマを決め活発な意見交換が行われている。町内会や消防組合、家族、福祉を高める会、民生委員、包括支援センターの職員等様々な方々が出席し、連携が築かれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当事業所では生保の方も多いため、生活福祉課とは連絡を密にしている。また、介護保険課、障害福祉課など各担当者の方々と相談や連絡が直ぐに取れる関係を築いている。	市町村の担当者とは課題解決に向けて日頃から積極的に取り組んでいる。生活福祉課や障害福祉課との関わりもあり、それぞれ情報交換を行って協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、職員の能力、入居者様の状況や現場の状況によっては一時的に身体拘束に該当する場合がある。	全職員は身体拘束の弊害を理解している。利用者の安全を図る為に家族と話し合い、了解の下に一時的に身体拘束を行うこともある。経過を確認し、職員間で話し合い、身体拘束に触れないケアの工夫を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを各フロアに置き、職員がいつでも閲覧できるようにしている。また申し送りやミーティングなどで検証し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員はまだ勉強会などの学習機会を持っておらず、周知徹底は来ていない。必要な入居者様にはすでに制度の利用をしていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の説明をしっかりと行い、入居者様家族からの質問や疑問には必ず回答を示し必要であれば入居者様、家族、職員で話し合いの場を持ち、本人家族が理解し納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見や要望はそれを聞いた職員が記録に残し、職員全体に伝達している。すぐに対応できない事柄は会議の場で検討する。家族には苦情箱を設置しているが使われず、職員に直接話されている。	職員は担当する利用者の様子を手書きの手紙で伝え、家族との信頼関係を築いている。家族からの意見や要望は直接訪問時に声掛けして聞き、真摯に捉え、状況によっては会議を開き、事業所の現状を伝え、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見提案は各フロア主任→管理者へ報告され、必要に応じ主任会議→全体会議で検討し、運営により良く反映できるよう努めている。	各ユニットでミーティングが行われ活発な意見交換が日常的に行われている。職員同士の信頼関係が築かれ、出された意見や提案について、実現できるように工夫し、反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告に基づき職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者の権限内で、勉強会の実施や研修を受ける機会の確保、勧めを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接する事業所、法人内外の事業所との交流する機会を設けるよう努めている。合同のイベント・勉強会・運営推進会議など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際し最も大切な事柄であり、ご本人・家族から時間をかけて傾聴している。そして職員一人ひとりがその方の「思い」を受けとめ、よりよいケアが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を良く聞いたうえで、グループホームとして出来ること、出来ないことなどを家族にしっかりと理解・納得していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、その方にとっての向き不向き・またすぐに入居できない場合があるため、他事業所への見学・相談もするよう勧めており、紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が楽しみながら出来る仕事(洗濯物干し・たたみ・食器拭き・紙箱・袋折・編み物など)を職員と一緒にして頂く中で、話を傾聴したり、教えて頂くことで感謝の気持ちを伝えられるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、こちらから相談させて頂く、協力をお願いをするという関係を保ちながら、入居者様の誕生日会やイベントへの参加を呼びかけ一緒に楽しんで頂けるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前・入居時にご本人及び家族から話をよく伺うようにしており、家族と相談協力しながら対応している。	季節ごとのお墓参りに同行したり、利用者が電話をかけたい時や帰宅願望の利用者について家族と話し合い実現できるよう努力している。これまでの生活が途切れることの無いように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活暦や個性を尊重し、職員が潤滑油のような役割を果たし、入居者様同士が仲良く助け合いながら生活できる環境づくりを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退去された方にはこちらからお見舞いや連絡をとるようにしている。ほとんどの場合死亡による退去だが、家族が来訪してくださったり、入居希望者を紹介してくださったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人・家族とも相談をしながら、ご本人の『思い』を掬い取る努力をしご本人の望む生活の実現を目指している。	利用開始時に家族から情報を聞いている。日頃から利用者に寄り添い、意向の把握が困難な場合は表情やあいうえおボードを使用している。今後の取り組みとして利用者とのスキンシップや一緒に過ごす時間を多くしたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から家族やご本人が利用・入院していた機関・施設等と連絡を取り情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「状態は変わる」という認識を持ち、職員の思い込みを無くすよう努めている。そのために、正確できめ細やかな介護記録が必要になる。そうした記録と職員の観察を持ちカンファレンスやミーティングで総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人からの意見や相談があればその都度必要に応じ、医師や看護師・家族・職員・必要な関係者と話し合いながら、介護計画を作成している。	介護度が進行する中、本人家族との意見交換を行い個別の問題では医療面の対応や食事形態、誤嚥性肺炎防止など考慮しながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌・身体状況の記録をとり、必要な情報は常に閲覧・回覧し実践や介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「憩」の名のとおり、入居者様にとって憩いの場所として、他の入居者様の迷惑にならない限り、一人ひとりの要望に沿った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化活動への参加や交流、数々の慰問、市の担当課との協働による支援、警察・消防との連携による防犯・防災の対応など充実した支援を進めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の希望を優先しながら、今後、安心して適切な医療をうけられる、かかりつけ医・医療機関を本人・家族と話し合いながら、決めている。	本人や家族が納得する医療が受けられる体制となっている。かかりつけ医への受診支援や緊急時の状態把握のために提携医との関係も築かれている。皮膚科や歯科の往診等の支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	福山記念病院の訪問診療で入居者様を良く知る看護師及び隣接する事業所所属の看護師と連携が出来ており、情報交換や指示、適切な受診や看護を受ける事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に関する病院からの説明には必ず職員・家族が同席し、退院までの計画を把握。洗濯物や必要物品の購入など事業所と家族で相談し分担しており、常に家族と職員が入居者様を支える態勢をとっている。そのため、病院との連携もしっかりと構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の現状をリスク面を含めて説明し理解を得ている。事業所の「出来ること・出来ないこと」は医師や看護師の意見を聞きながら、見極めご本人・家族に説明をしている。状況に即し関係者が集まり、情報交換・相談をし、誰もが後悔のないよう慎重かつ綿密に進めている	入居時に家族に説明し理解を得ている。提携医との連携も築かれ、状況に即しその都度話し合い、場合によっては入院となる事もある。大きな病気でない限りは関係者と共にチームで取組む体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在定期的な訓練は行っていないが、研修会などに積極的に参加し実践力を身に付ける努力を続けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議などを利用して消防をはじめとして、地域の有識者に入居者様の様子を含めた事業所の実態を理解して頂き、有事の際には支援して頂けるよう協力体制を築いている。	スプリンクラーの設置や避難場所への誘導策等、周知避難訓練は実施されている。運営推進会議で地域の消防団との連携を築いている最中である。	消防団が参加している運営推進会議を活用して、地域住民の支援体制の強化を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの尊厳を大切に、なおかつ親しみやすさを失わない家族的な対応を心がけている。	一律に対応を決めてしまうことなく、利用者一人ひとりの性格、性別、職員との関係を図り、親しみやすく丁寧な声掛けを行っている。また、書類等は事務所で保管し、個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの入居者様の思いや希望を掬い取ることを心がけている。発語に難のある方にはアイウエオボードや筆談を用いる。一方的な声掛けや対応にならないように注意し、自己決定して頂けるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	加齢による重度化、認知症の進行などにより日常生活の維持が困難な方が増え続ける中、職員は精一杯入居者様に寄り添う支援を続けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は一人ひとりの希望に添っており、お店にお連れする方や2～3ヶ月毎に美容師さんに来ていただき相談しながら好みのカットをされる方など。化粧品も揃えており、希望者にはお貸ししたり、お化粧品をして差し上げている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食を含め、入居者様のリクエストにも応じた食事を提供している。入居者様の様子に合わせて準備や食事、片づけをしている。職員も同じ物を一緒に食べながら安全に安心に楽しい食事を心がけている。	朝食はそれぞれの起床時間に合わせている。食事が楽しみなものになるよう、おはぎやお好み焼き、クリスマスケーキ等季節感や希望を取り入れた献立である。職員と共に食事を作り、片付けなども行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は細かく記録し、必要量の確保に役立てている。自力摂取の困難な方や嚥下の困難な方にもそれぞれ個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	家庭生活を基本としているので、入居者様の生活習慣に合わせるため、毎食後の口腔ケアはしていない。どの方も1日一度の口腔ケアは欠かさないようにしている。そのうえで、歯科の訪問診療を受け定期的な口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせて布パンツ・リハビリパンツ・紙おむつ・大小パットを臨機応変に使い分けている。自然な排泄を気持ちよくして頂けるよう、その方に合わせた声掛けとタイミングで誘導・介助を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しているので声掛けやタイミングに合わせてトイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。個々にパットを使い分けたり、バルーン対応の方には往診支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安らかな睡眠をとって頂き、運動にこだわらず生活の中で、楽しくからだを動かし、おいしく食事を摂って頂く。ストレスの溜らない生活を送って頂けるよう努めている。なにか異常の兆候があればすぐに病院に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したくない自由も含め、ご本人の希望に添って入浴ができるよう配慮している。認知症の進行により便失禁・汚染してしまわれる方や頻度が増え個々の希望に添えない時には「ごめんなさいね」のこたばを添えてお話ししている。	希望者は毎日入浴できるが、概ね2～3日に1度、入浴する利用者が多い。入浴を拒否される方について、その意思を尊重しながらも清潔保持のため言葉がけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望と安全が保たれるよう、個々に合わせてベッド・畳を選択して頂いている。年間を通じ屋内・室内の温度調整を適時行い、寒い時期には湯たんぽも用意している。日中は掘り炬燵のある和室・ソファ・居室で自由に過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は変わるたびに保管し、職員は作用副作用を確認する事としている。特に薬が変わったり、新しく出た場合など様子観察を強化し変化と確認を記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや書道・ぬりえや貼り絵・編み物などの趣味、チラシや新聞紙で折るゴミ箱などの手作業、職員・入居者様手作りのゲームなどのレクリエーションを様々な場面で無理なく楽しんで頂けるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の精神状態や体調、屋外の状況を考慮し、無理なく安全に支援できるよう努めている。普段は行けないような場所でも、医療機関・家族と相談しながらご本人の希望に添えるよう努めている。	利用者の体調や季節、状況を考慮して取り組みを行っている。地域の方々との挨拶や温かい見守りがあり、安心して散歩を楽しむことができる。普段行けない所への外出支援等医療機関や家族の協力を得て取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご本人・家族とよく話し合い、その方が納得し安心できる方法をとって頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員は、家族や相手先の事情を把握・考慮し、家族や相手先に拒否されている場合や迷惑がかからない限り、ご本人の希望に添う支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ブラインドやカーテン・照明を調整し入居者様が落ち着いて生活できる空間作りを心がけている。季節や入居者様の体調に合わせて温度調節を行っている。季節に合わせた飾り物やイベントを考えている。	脱衣所には目隠しがあり、調理場からフローア全体が見守りやすい設計である。和室には、コタツをしつらえ寝転ぶことができ、家庭的である。水槽には稚魚から育てられた金魚を飼い、廊下の端には利用者が一人になれる空間があり、居場所の工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	転倒などの危険に充分配慮しつつ、皆が集える場所・居室以外にもひとりになれる場所や気の合った人同士で過ごせる場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出や馴染みのあるものを置くことで、それまでと変わらない生活が維持できるように努めている。またADLのや身体状況の変化に合わせて洋室⇔和室・ベッド⇔布団敷きなど変更が可能で一人ひとりの生活しやすいように考えている	一人ひとりの利用者の身体状況に合わせ、居室の配慮が見られる。これまでの生活で使い慣れたものを持ち込み安心して過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	担当職員、フロア主人が中心となり、一人ひとりについてカンファレンスやミーティングなどで検討し家族とも相談しながら、安全で安心して安楽に生活して頂けるよう努めている。		